令和 5年度　　事務事業評価表（　令和 4年度　の実績評価）

記入年月日	
令和	5 年 4 月 3 日

事務事業名	市学校給食会参画事業	事業区分		担当	
		新規/継続	継続	事務事業№	020101000138
政策体系上の位置付け		単独/補助	単独	所属課	090101
政策体系	総合計画の施策名	0201	学校教育の充実		学校教育課
	政策名	02	生きがいを育む学びのまちづくり	課長名	
	施策名	01	学校教育の充実	グループ	総務グループ
	手段名	01	①教育内容の充実	担当者名	

財務会計上の位置付け								事業期間
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計	単年度繰返し　（ 平成18 年度～）
	01	10	01	02	02	00	事務局事業	↳ 期間限定の場合、総投入量を（3）投入量の右側に記入

法令根拠

【Do】　1．事務事業の現状把握（その1）

（1）事務事業の概要

手段 ①事務事業の概要（事務事業の全体像）	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
桜川市内の学校給食を実施している学校の校長、給食主任並びに学校給食センター所長、栄養士で組織され、学校給食に関する調査と研究や学校給食と関連した食に関する指導の研修などをする公共的な事業である。 主な事業は下記のとおりである。 ・学校給食に関する調査と研究 ・学校給食に関する事業の企画と実施 ・学校給食と関連した食に関する指導の研修 給食会の業務内容・・・総会、研修会、学校給食実技研修会の開催	運営は、市内学校が輪番で行っている。学校教育課は、市学校給食会への負担金の納入事務のみである。 負担金の納入事務（桜川市学校給食会）

（2）事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段　（担当者の活動内容）	④活動指標　（活動量を表す指標）	単位	03年度（実績）	04年度（実績）	05年度（計画）	06年度（目標）	07年度（目標）
総会、研修会、学校給食実技研修会の開催	開催回数	回	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	出席人数	人	34.00	34.00	34.00	34.00	34.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象　（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標　（対象の大きさを表す指標）	単位	03年度（実績）	04年度（実績）	05年度（計画）	06年度（目標）	07年度（目標）
校長、給食主任、学校給食センター所長、栄養士	校長、給食主任数	人	26.00	26.00	26.00	26.00	26.00
	学校給食センター所長・栄養士数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図　（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標　（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	03年度（実績）	04年度（実績）	05年度（計画）	06年度（目標）	07年度（目標）
実技研修会や研修視察等を通して、給食主任や栄養士の給食に関する意識を高め、学校給食の質を高める。	学校給食の質を高めるために出席した会員の割合	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

（3）　投入量（事業費）の推移

投入量			03年度（実績）	04年度（実績）	05年度（計画）	06年度（目標）	07年度（目標）	期間限定総投入量
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	使用料・手数料	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	13	13	13			
事業費計（A）		千円	13	13	13			
正規職員従事人数		人	1.00人	1.00人	1.00人			

事業費の内訳

04年度事業費 実績（千円）				05年度事業費 予算（千円）			
18 負担金補助及び交付金	13			18 負担金補助及び交付金	13		
		合　計	13			合　計	13

（4）当該年度の実施内容	05年度の事業内容	06年度の事業内容	07年度の事業内容
※年度ごとに事業内容を記入する	・負担金の納入	・負担金の納入	・負担金の納入

事務事業名	市学校給食会参画事業	事務事業№	20101000138	所属課	学校教育課

（5）この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？　開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

学校給食の円滑な運営と発展を図ることを目的とした学校給食会は昭和56年真壁郡学校給食会として発足した。
市町村合併により平成18年度から桜川市学校給食会となる。
平成30年度桃山学園の開校及び給食センターの統合により小学校９校、中学校４校、義務教育学校１校、学校給食センター１施設となる。

（6）この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし。

【See】　2．評価の部　　＊原則は事前評価。

評価項目		
現状維持	①政策体系との整合性　（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）	
	結びついている	児童生徒への給食指導や食に関する指導力が向上し、学校給食の充実に結びつく。
	② 公共関与の妥当性　（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）	
	妥当である	桜川市の学校の校長、給食主任並びに学校給食センター所長、栄養士が学校給食に関する調査と研究や学校給食と関連した食に関する指導の研修などをして学校給食の充実を図っている。
有効性	③ 成果の向上余地　（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）	
	向上余地がない	学校給食に関する調査と研究や学校給食と関連した食に関する指導の研修などをして学校給食の充実を図っている。
	④廃止・休止の成果への影響　（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）	
	影響有	桜川市の学校給食の充実が図れなくなる。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性　（類似事業や統廃合の可能性がありますか？（市以外の取り組みも含む））	
	（他に手段がある場合）⇨	具体的な手段、事務事業名
	余地がない	他に類似事業はない。
効率性	⑥事業費・人件費の削除余地（成果を下げずに事業費を削除できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）	
	削減余地がない	負担金１３千円の納入事務のみであり、削減の余地はない。
公平性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地　（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）	
	公正・公平である	桜川市の学校の校長、給食主任並びに学校給食センター所長、栄養士が学校給食に関する調査と研究や学校給食と関連した食に関する指導の研修などをする公共的な事業である。

【Plan】　3．評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

（1）　1次評価者としての評価結果

①目的妥当性	■	適切	□	見直し余地あり
②有効性	■	適切	□	見直し余地あり
③効率性	■	適切	□	見直し余地あり
④公平性	■	適切	□	見直し余地あり

⇨

（2）　全体総括（振り返り、反省点）

コロナ禍ということで令和２年度～令和４年度については学校給食に関する調査と研究・研修会などの事業を実施できなかったが、次年度も継続して予算措置を要望する。

（3）　今後の事業の方向性

□ 終了　■ 継続 → □ 改革改善を行う →（複数回答可）
□ 目的の再設定　□ 効率性の改善
□ 有効性の改善　□ 公平性の改善
□ 統廃合ができる　□ 連携ができる
□ 廃止　□ 休止　→ ■ 現状維持

（4）改革・改善による期待成果
（終了・廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト 削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	╳
	低下		╳	╳

（5）　改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

（6）事務事業優先度評価結果

成果優先度評価結果	⑤

【Check】　4．確認及び改革改善に向けての指摘事項

（1）　課長評価

課長確認後の評価

A

A：継続（現状維持）
B：継続（改革改善を行う）
C：終了、廃止、休止
D：2次評価へ提出

（2）　部長確認及び評価　（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）

確認欄
確認